



英米人はほめられても 謙遜しない、はウソ!



日本人と英米人の謙遜のちがい

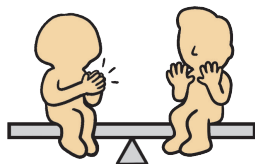
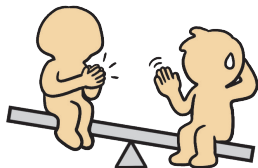
日本では英米人に対して「ほめられてもそのまま受け入れ、謙遜しない」という印象をもっている人も多くいますが、実際はそうではありません。英米人も意外に謙遜するのです。

とはいえ、英米人の謙遜は日本人の謙遜とは原理が異なります。日本人は、「そんなことはないです」に続いて「私なんて…」と、相手より自分を下げます。一方、英米人は、「大したことないです」と、相手と対等な位置まで戻ります。

◎ ほめられたときの日本と英米の対応の違い

日本人は、「私なんて」と
相手より自分を下げる

英米人は、「大したことない」と
対等の位置まで戻る



英米人はほめられた話題を長引かせない

英米人はほめられたときに、Thank you. とお礼を言って、早くそ

の話題を終えようとするパターンがよくあります。「この話はこれで終わり」という感じですね。対して日本人の場合は「いえいえ、そんなことはないですよ」と言って謙遜しながら、その話題を引き延ばしがちともいえます。

このちがいは、日本のアニメや映画の英語吹き替えを観察するとよくわかります。日本人が長々と謙遜しているシーンが、英語版ではThank you. だけで終わっていたり、省略されていたりすることが多いのです。これは、日本語の言語行動を翻訳者が英語圏で受け入れられやすいものに変えているからです。

アニメ翻訳が教えてくれる言語行動の違い

アニメは、文化的な言語行動のちがいを研究するうえで興味深い資料となります。特に字幕と吹き替えの両方がある作品で日英のセリフを比較してみると、言語による違いだけでなく、書き言葉（字幕）と話し言葉（吹き替え）のちがいも見えてきます。言語が変わればどういうコミュニケーション行動をとるかが変わります。例えば日本語特有の「よろしくお願いします」は、挨拶などに代えられていることがよくあります。



Thank you. といって話題を早々に切り上げるのが英語流とは意外でしたが、ナルホド～!

英語圏では、自己卑下的な謙遜は「もっとほめてほしい」という態度に受け止められる傾向があります。

